

# 3.11東日本大震災を 振り返る



南三陸町

福祉に・ずっと・まっすぐ



株式会社ツクイ

東北圏

宮城エリア

佐藤

清志

やり!!

海  
の港!!  
この浜  
活きまい









佐藤









DAY  
デイサービス  
SERVICE

ゲーム  
14:00~

おやつ  
14:40~





新 介 所





グループホーム

H17・11月オープン  
2ユニット 18人定員

H26・10月 共用型  
3人定員  
認知症対応型通所介護開始

デイサービスセンター

H17・5月オープン  
30人定員

# 震災後 送迎 エリア

津波被災地域で居住が少ない

復興住宅建設

大型の仮設住宅団地

送迎エリアを拡大して  
営業を強化する地域



# その時・・・地震が来た

**2011年3月11日(金曜日)14時46分18秒**

**宮城県 牡鹿半島の東南東沖130km**

**(北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km)を震源とする  
東北地方太平洋沖地震が発生した**

**デイサービス お客様23名**

**グループホーム お客様18名**

**車輦 ワゴン車2台、軽4台 一度には全員乗車出来ない**

**状況を見守る時間があった・・・**

**防災無線で大津波警報が発令、避難のアナウンスが流れた**

**事業所から海は見えません、津波がどんなものか・・・**

**地震で怪我はなし**

**とりあえず避難することをグループホーム所長と決める 15分後位**

**停電、電話不通になる**

# 所長 1回目の苦悩

職員から子供や家が心配だから帰りたいと言われる・・・

3時帰りのお客様が帰りたいと騒いでいる

職員もお客様も不安が

一瞬、困ったなと思った

職員を帰してあげたいが、帰せばお客様はどうすれば？

近くの職員は考えも交錯し、子供を連れてここに来ればと言った・・・

海に近い職員は危険だから残した

お客様も送迎することは危険だからと一緒に避難することを説得

グループホームと交互にピストンで近くの好文館高校に避難開始

3往復ぐらいしているうちに、足下に津波が

渋滞してきた

在宅酸素の換えがなかった・・・

# 避難先 好文館高校



# 避難先 好文館高校 校舎3階と体育館2階

**別々の建物へ避難、車いすのお客様の対応**

避難先を指示したが、別々の建物へ各車輦避難した  
結果的に校舎3階と体育館2階に離れてしまった  
全体の避難状況がわからなかった

県立好文館高校は 避難場所で避難所ではなかった

**津波が来ていたので1階には滞在できない**

お客様の誘導、車いすのお客様を階段で2階、3階への誘導が厳しい

高校の男子生徒が大きな声で誘導、車いすと一緒に運んでくれた

職員だけでは対応は出来なかったかもしれません。感謝しかない！

体育館は冷たい床に座るしかない

教室は椅子があったが、すでに一般住民もいっぱい

学校の先生は生徒の対応、一般住民の対応で・・・

生徒も先生もできることをしてくれた

## 避難訓練と実際は・・・

**訓練は活かされたが、それ以外が多すぎて・・・**

**避難は訓練通りできたが、ピストン、別の場所に滞在する想定がない  
訓練は計画されたもので、その通りに行っていたが  
災害備蓄品が不足していた、電気、電話が不通の想定がなかった  
緊急連絡ができなかった、安否の確認ができなかった  
管理者が支持する者がその場にいない場面がある**

## 日が暮れてきた・・・

**遅くなっても帰れると思っていた・・・**

**薄暗くなって校庭に津波が、1階の教室が水でいっぱい  
ワゴン車のダッシュボードまで津波が、ハザードがつき、クラクションが  
携帯も通じない、家族に居場所と無事をメールした  
日赤に何度も電話した、奇跡的に通じた、在宅酸素ボンベを頼む**

# 夜になり、真暗の教室、体育館、そして朝に

寒くなってきた、真暗、携帯の明かりが頼り、じっとしてるしかない  
お客様の対応をしなくては・・・自分達の家族の安否もわからない  
横にしたり、トイレ介助・・・ツクイのお客様だけではなかった

一般の方の携帯がメール可能、ラジオの安否確認に

ツクイ石巻大街道、全員無事、好文館高校に避難と送ってもらった

在宅酸素の目盛りが0になった

動かない、しゃべらない様にしてもらう以外に方法がなかった  
数分おきに息をしてるか、大丈夫かと励ました  
そして明るくなったが、誰も救助には来なかった・・・

酸素ボンベと取りに自宅へ行こう

歩いて1キロの自宅に、でも流されていないか・・・

余震あり津波警報は続き、腰まで海水がある道を歩いて自宅に  
ボンベがあった、間に合うか・・・

## 2日目、体育館に行けてみんなと再会

少し元気になったが、排せつの問題が

水洗トイレに水がないので、排せつ物が便器を覆いつくしてきた  
トイレが避難者に対して足りない…

衣装ケースやバケツを利用した

事業所に戻ってみた… 再開はできないのでは…

事業所にお客様、職員全員無事、好文館高校に避難中と張り紙を

## 所長 2回目の苦悩

張り紙を見て職員の家族が集まってきた

家族や子供が来て家に帰りたいと思っている…

どうしたらよいのか？ある職員からどうすればいいですかと聞かれる

私は、帰っていいとも、残ってくれとも言えないと言ったら

みんなが、所長の指示に従うと言った。そしてみんな残った…

## 3日目 自衛隊が来た

避難所じゃなかった・・・やっと救援物資等が来た

体調不良者等を自衛隊が日赤に搬送を始めてくれた

お客様が突然倒れた・・・相談員が自衛隊のヘリに付き添っていった  
どこに連れていかれるかわからない、戻る手段もないのに・・・

日にち思い出せないが、ツクイから応援が来た

水色のジャージで仙台等からおにぎりをもって来てくれた

すごく眩しく見えた、映画みたいなシーンだった

すごく心強かった！

ツクイだけで食べれなかった

グループホームの非常食のビスケット、一枚を4つに割って

自分達だけでは・・・

自衛隊と協力して、要援護者の対応にあたった

そして一日一日と家族、病院、別の避難所へ 最後の一人まで

# 今思うこと…

- ① 管理者の判断、指示は重い
- ② 訓練と実際の違い→自分も職員も家族がいる当事者、被災者
- ③ 避難所と避難場所は違う
- ④ 災害時は職員をどうすればいいのか、どうすべきなのか
- ⑤ 停電、断水、携帯が使えない災害時を想定しないと
- ⑥ 非常食の備蓄、その他の準備
- ⑦ 送迎車だけで一気に逃げられない
- ⑧ 災害時に応援してくれる事業所との提携
- ⑨ 災害マニュアルの細分
- ⑩ どこに逃げる、避難するかの定例化
- ⑪ 災害別の避難、サービス継続のルール
- ⑫ 行政、ケアマネージャーも被災者となる
- ⑬ 一人暮らしのお客様の対応